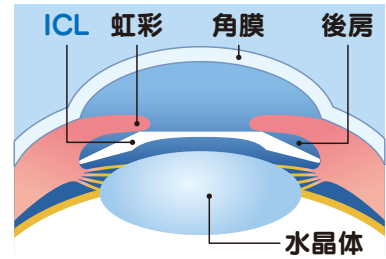


特集 ICL挿入手術による視力矯正。

ICL (Implantable Collamer Lens) 挿入手術とは、眼球内の虹彩と水晶体の間にレンズを入れて、近視や乱視を矯正する手術です。水晶体を残したままレンズを挿入するため、「有水晶体眼内レンズ (フェイクIOL)」とも呼ばれています。手術可能かどうかは適応検査にて判断します。



メリット

目への負担が少ない

- 小さな切開部分からレンズを挿入します。切開が小さいために回復も早く、手術翌日には快適な視力回復が期待できます。
- 日々のお手入れが不要で、長期的に安定した視力を維持できます。

適応範囲が広い

- 角膜を削らない上、レンズの矯正精度も高いため、近視の強い方でも質の高い見え方が期待できます。
- 角膜が薄くてレーシックを受けられなかった方も手術を受けることが可能です。

取り外し可能

- 万が一、術後に問題が生じた場合はレンズを取り出して元の状態に戻すことができます。屈折変化が生じた場合も、レンズを交換することが可能です。

デメリット

- 患者さんに合わせたレンズ作成のため、レンズが届くまでに1ヶ月程度かかります。
- 手術後、まれに白内障を誘発したり、眼圧が高くなったりすることがあります。
- この治療は健康保険の適応対象外のため、治療費は全額自己負担となります。

治療の流れ

適応検査

レンズ発注

挿入手術

定期検査

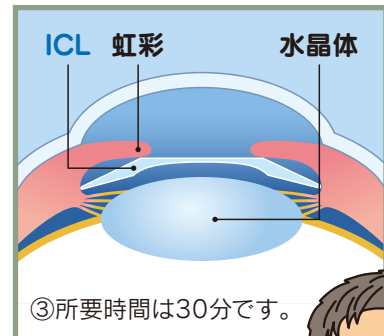
手術の流れ



① 麻酔の目薬を点眼します。



② 切開し、レンズを挿入します。



③ 所要時間は30分です。

ICL手術は角膜を変形させることなく行える、安全な近視矯正手術です。万が一合併症が生じた場合でも、レンズを摘出することが可能です。特別な講習等を受講した認定医が手術を行います。興味のある方はスタッフにお尋ね下さい。

出田眼科病院 副院長 矢部 伸幸

